日新聞 朝日 2018.10.21 第3種郵便物認可

攻防の末「再稼働賛成」

薩摩川内市議会 特別委割れた意見

騒然とした中、川内原発の「再稼働賛成」の陳情を採択した20日の薩摩川内市議会の川内原発対策調査特別委員会。再稼働の賛否だけでなく、採決するか延ばすかを巡っても委員同士が激しい攻防を繰り広げた。

傍聴を求めて委員会室前に詰めかけた人たち（右）と、出入り口を警備する市職員（左）＝薩摩川内市議会

委員会では「十分に審議をした」と、採択を求める意見がまず出た。これに対し、「本当に採決していいのか」と、再稼働に反対する委員などから反対の意見も相次いだ。

理由は、隣のいちき串木野市でこの日夜に計画されている住民説明会だ。薩摩川内市民も参加する予定のため、「それを待って採決すべきだ」と主張する反対派議員。賛成派議員が「薩摩川内市民を対象としたしっかりとした説明会は終わっている」などと反論。採決するか否かの決が3度にわたってとられた。

再稼働を巡っても激しい討論が交わされた。反対派議員は「避難計画は自治体任せだ。同時に災害が起きたケースなどが十分に検討されていない」と主張。これに対し、賛成派議員は「避難計画と原発の再稼働は区別すべきである」とし、「原発を今すぐ、10年後に無くすというのは時期尚早」などと訴えた。

川内原発に被害をもたらす恐れのある巨大噴火について反対派議員は「『いつ噴火してもおかしくない』と言っている火山学者もいる」と強調。賛成派議員は「カルデラ噴火も、川内原発に影響与える可能性は十分小さいという審査結果が示されている」と訴えた。

討論の間、委員会室の前には入室できない傍聴希望者数十人が押しかけ、市職員と一時もみ合いとなった。委員会終了後、再稼働に反対する市民団体などは市役所前で集会を開き、委員会の運営を批判。反原発・かごしまネットの向原祥隆代表は「説明会はまだ終わっていないのになぜ強行したのか。議会のやり方はおかしい」と訴えた。

「再稼働賛成」の陳情を提出した薩摩川内市原子力推進期成会の山元浩義会長は記者会見を開き、陳情採択について「大変ありがたい。早期に再稼働し、地域経済の活性化と雇用の安定確保につながることを期待している」と歓迎した。

知事に自重求め要請書

川内原発の再稼働に反対している市民団体「川内原発建設反対連絡協議会」や国際環境NGO「FoE Japan」など10団体が20日、伊藤祐一郎知事と池畑憲一県議会議長あてに、県民の反対の声を無視して地元同意の手続きを進めないよう要請書を提出した。

インターネットでの呼びかけに全国から応じた2754人と188団体の署名も添えた。要請書では、県民の声を聴くための公聴会や賛否を議論する公開討論会の開催も求めている。

「FoE Japan」の満田夏花さんは「住民説明会でたくさんの人が反対意見を述べているのに、県や薩摩川内市の地元同意の手続きがスピーディーに進んでいることに驚いている。どうにか思いとどまってほしい」と訴えた。

阿久根市議会は先送り

阿久根市議会は20日、総務文教委員会を開き、川内原発の再稼働に反対する陳情や、再稼働同意の権限を求める陳情について、提出者から意見を聴いた。採決は先送りした。牟田学委員長は「薩摩川内市議会や県議会の動向は踏まえつつ、阿久根市は阿久根市で結論を出したい。遅れたとか取り残されるということにはならないと思う。今月末には委員会の結論を出す」と述べた。

青果 ダイコン 83▼ 81
鹿児島 川内 100 170
国分 45 151
鹿屋 一
市
◇陸上【成・リレー予と上位14
②鹿児島【成・リレー予と上位14
⑦鹿児島◇ソフ【少年
▽準決 鹿児島
長崎
【鹿
—大石
▽決勝
群馬
とのコ 県警 性にも て暴行 薗容疑 再逮捕 る。